

西淀川区学校保健協議会

大阪市立川北小学校
前田和子 先生

「保健5部会」開催される

11月21日、西淀川区医師会（西淀川公害医療センター内）において保健5部会が開催されました。学校医部会、学校歯科医師部会、学校薬剤師部会、保健主事部会、養護教員部会の5部会の先生方に参加していただきました。講師には、学校医部会の医療法人福田診療所院長 福田弥一郎先生をお招きし、盛会に開かれました。



講師 医療法人 福田診療所 院長

福田 弥一郎 先生

演題 「新しい外傷の治療「湿潤療法」による傷やヤケドの手当」

湿潤療法は、練馬光が丘病院傷の治療センター長である夏井睦先生が広められたもので、考え方からして従来の治療法と全く違うものです。新しい治療法が広がってきまして、擦りキズやヤケドなどの治療に、キズを消毒してガーゼを当てる治療から、キズを水洗いして被覆材で覆う治療「湿潤療法」にかわってきています。

○キズは乾かしてはいけない
皮膚の細胞は、乾燥状態では遊走・増殖できず、死んでしまいます。皮膚の再生に重要な肉芽組織も、乾燥すると壊死します。ですから、キズは乾かしてはいけません。キズを乾かすと、治りが遅いし、痛みも強く、カサプタになって、汚く治ります。

○キズのジューク（分泌物）って何？
これには、細胞成長因子などのサイトカイン、線維芽細胞、白血球などが含まれており、キズの治癒を促進する液体です。最強の細胞培養液と言ってもいいでしょう。これを上手に利用した方がキズは早く治るのです。

○湿潤療法の原理
皮膚にキズができると分泌物が出てきますが、重力でこぼれ落ち創面は乾燥してしまいます。湿潤療法は、キズの上から適切な蓋（被覆材）をして、分泌物をキズに留めることに

- よって、乾燥を防ぎ、その培養作用が働いて、キズを早くきれいに治そうというものです。
- ガーゼは「創面を乾燥させる」
ガーゼはキズを乾燥させることによって、キズの上皮化を遅らせ、また、キズに貼りつき、剥がすと痛くて出血します。その上、せっかく治ってきた細胞も一緒に剥がれ取ってしまいます。ガーゼを貼って剥がすと、キズは深くなるのです。ですから、ガーゼなどのキズに固着する被覆材を使つてはいけません。
- キズは消毒しない
消毒薬は、細菌を殺しますが、それ以上に、ヒトの正常な細胞も殺してしまいます。そのため、皮膚の細胞が増殖しにくくなり、更には細胞成長因子まで出なくなり、その結果、治癒（上皮化）が遅れることになり、消毒は必要ない分、感染には細心の注意が必要となります。
- 湿潤療法とは
フィルムやラップ、その他の被覆材を使って、キズの湿潤環境を保つ療法です。適度な湿度が必要ですが、分泌物が多すぎるとだめです。次のような利点があります。
- ① 痛くない。（剥がす、消毒、乾燥などの痛みが少くない）
 - ② 浅いキズの場合、カサプタを作らず、キズ全面に淡いピンク色の薄

い皮ができ、一気にしつかりしたきれいな皮膚が完成する。

- ③ 治りが早い。
 - ④ キズ跡がきれい。
- 湿潤療法の処置とは
- ① 水道水で洗う。
 - ② 血液や異物を除去する。
 - ③ （必要な場合はワセリンを塗って）適切な被覆材で覆う。

消毒はしません。ガーゼやキズに貼りつくものを使いません。キズを害する薬剤を使いません。

○学校や家庭でできる湿潤療法

- ① 水洗い—砂や汚れを落とすために水道水でしっかり洗う。キズに異物や汚染物があると、後で化膿します。異物が残る場合は病院へ。ヤケドの場合は、水泡膜もそとと取れる範囲で取りましょう。
- ② 止血—出血していれば、清潔なタオルなどを当て5分間圧迫。傷口が開いている時や止血できない場合は病院へ。
- ③ キズより一回り大きくラップを切る。ラップには、小さい穴を複数あけておく。（余分な分泌物を出すため）

- ④ ラップに白色ワセリンを塗る。
 - ⑤ ラップで覆って、テープで止める。
 - ⑥ 余分な分泌物を吸収するためには、ラップの上からガーゼやタオルなどを当てて止める。
 - ⑦ 必要に応じて、包帯などを巻く。
 - ⑧ 毎日洗って、キズを観察しつつ、ラップを交換する。観察が重要で、感染したかどうかは、毎日の観察で判断します。（後述）
- こうすれば良いでしょう
最初のうちは一日1〜2回、「キズを洗ってラップを取り替える」を繰り返して行います。
- ・初めのうち、キズは分泌物が多く出てジュークジュクしてはいますが、次第に分泌物が少なくなり、擦過傷などの軽いキズであれば、3〜4日位できれいな皮膚が再生するはずです。
- ・とにかく大事なのは、「キズを消毒しないこと」、「キズを絶対に乾かさないうこと」です。
- 病院を受診した方がよいキズ
・出血が止まらない。
・洗っても砂や泥が取れない。洗えない。

- ④ 38.5℃以上の発熱がある。
・動物に噛まれた。引っ掻かれた。
・キズが深そうで心配。
・顔のキズなのできれいに治したい。
・途中から、発熱した、痛みが増した、発赤や腫れが出てきた場合。
これらは感染のサインです。この4つの症状が出た場合は病院に行くこと。
- 被覆材に必要な条件は
- ① 創面に固着しない。
 - ② 分泌物を創面に保持する。
 - ③ 過剰な分泌物は吸収する。
 - ④ 周囲の健康皮膚にあまり影響しない。
- 最近では良い被覆材が売られています。お医者さんや薬局で相談して購入して下さい。
- Ⅲ度熱傷も湿潤療法で
従来、皮膚移植しか方法が無いと言われていたⅢ度熱傷でも、湿潤療法を行うと、移植せずにすんで、期待した以上にきれいに治るようになってきました。
- ただし、これは家庭で行う治療ではありません。湿潤療法に詳しい医師をネットなどで探して受診して下さい。

授業研究

「感染症の予防」



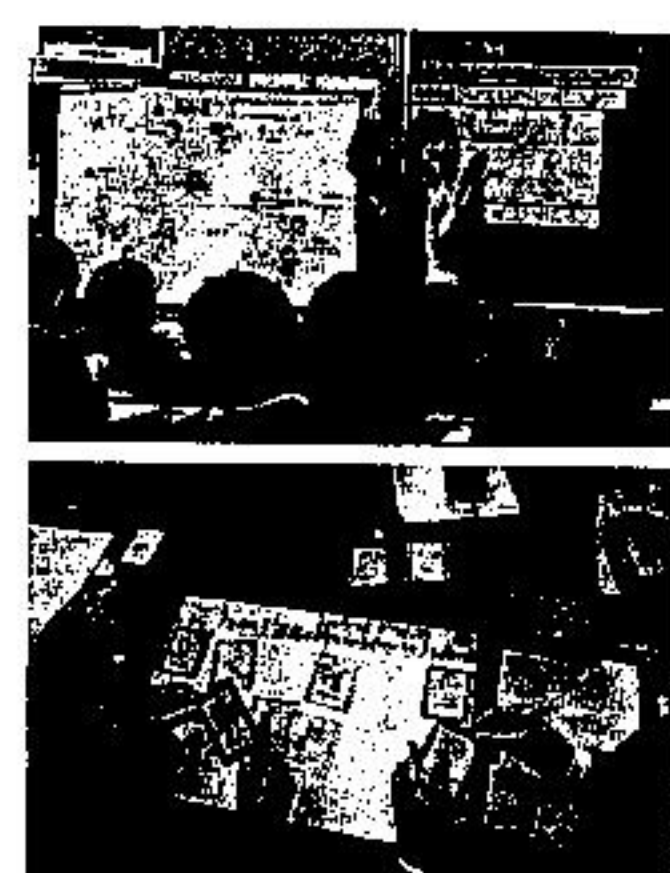
五年 数本 梓 先生

12月6日、姫島小学校で「感染症の予防」の授業が公開されました。

学級担任の数本梓先生の指導のもと、「感染症の予防」には、病原体がからだに入るのを防ぐことや、病原体に対する抵抗力を高めることが必要であることを理解できるようにする。「感染症の予防のための適切な対策を考えて行動できるようにする」という目標で授業が行われました。以下、授業の概略です。

1. 感染症とは、主に、病原体がもたらす起る病気であることを知る。

2. 感染症にはどのようなものがあるか発表する。
3. 感染症の予防には、病原体は、どのようにしてからだの中に入っていくか想起する。
4. 感染症を予防するために、普段から気をつけていることを書いて発表する。
5. 児童から出てきた感染症の予防の仕方を知り、班で感染症の予防の仕方を大きく三つのグループに分ける。
6. 病原体をなくす。
・病原体のうつる道筋を断ち切る。
・からだの抵抗力を高める。
7. 今日の内容を振り返り、感染症の予防についてわかったこと、これから気をつけていこうと思うことを書き発表する。



ワークシートを使ったり、色分けした絵カードを活用したりすることで、子どもたちは、主体的に楽しく活動することができました。

きました。班で三つのグループ分けをするときには、班ごとに準備されていた絵カードがたいへん有効であり、子どもたちのやる気にもつながり、活動がたいへん活発に行われました。また、ワークシートの拡大図などを掲示することで、子どもがねらいに迫りやすいように工夫がなされていました。

学習を通して感染症の予防のためには、石鹸でしっかりと手を洗わなければならないなど、子どもたちに、自分たちの生活を見直そうとする態度が見られました。

- 平成25年度役員
- 会長 前田耕一（佃南小 校長）
副会長 井石 聡（区医師会会長）
和久 修（福小 学校薬剤師）
普光江咲（大和田幼稚園園長）
竹本 剛（区PTA会長）
- 平成25年度常任理事
- 中野義宣（西淀川区役所企画調整担当課長）
福田弥一郎（西淀川小 内科校医）
田村泰臣（佃小 眼科校医）
辻 善弘（野里小 耳鼻科校医）
薄 孝（御幣島小 歯科校医）
小西百合子（川北小 学校薬剤師）
大西敏朗（淀商業高 校長）
平野大輔（歌島中 区幹事校長）
蓮尾正子（歌島小 区幹事校長）
田中由美（姫島幼 園長）
春井 勝（西淀川特別支援学校 校長）
城市剛史（佃南小 保健主事）
吉村美香（佃南小 養護教諭）
石田道子（佃南小 PTA副会長）
- 平成25年度会計監査
- 南 秀雄（西淀川区役所人事総務課副参事）
竹内妙子（歌島中 PTA副会長）
（以上敬称略）

編集後記

年度当初に区学校保健協議会の年間事業計画を立案して、慌ただしく年度末を迎えようとしていました。総会、保健大会、5部会、授業研究会等々、多岐にわたる研修の場を提供して頂き、そのどれもが本紙面には書ききれないほどの充実した内容でありました。

それぞれに参加されました皆様にも大変好評を頂き、多くの示唆に富んだ情報を分かち合えたのだと思います。今後の区内保健教育や、ご家庭での教育にお役に立てて頂けたらと思います。

大阪市教育委員会、区役所等関係諸機関をはじめ、医師会、歯科医師会、学校薬剤師会の諸先生方、そして各校園PTA、保健関係職員の皆様方のご支援ご協力に、紙面をお借り致しまして、厚くお礼申し上げます。

（文責）前田耕一（佃南小学校長）